

ニセツノヒラムシ科 Pseudocerotidae

ヨイミヤミノヒラムシ (新称)

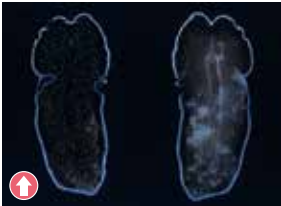
Thysanozoon sp.



(伊豆諸島八丈島・地先)



(琉球列島石垣島・地先)



固定した標本(左は背面、右は腹面)(CMNH-ZX 172/琉球列島伊良部島・地先)

特徴 楕円形で、体の縁部は波打っています。前端には1対の触葉 (P.2参照) を備えています。背面の地色は黒色で、縁部は白色の線で囲まれています。全体が多数の先端の黄色い小円錐状の突起で覆われています。腹面には1対の雄性生殖孔が開口します。

大きさ 体長 50 mm、体幅 25 mm。

分布 八丈島以南の日本;インド・西太平洋熱帯・亜熱帯域。

メモ インド・西太平洋のサンゴ礁域では普通に見られ、本種に対して *Thysanozoon nigropapillosum* (Hyman, 1959) の学名を使うことがありますが、分類学的位置付けは定まっていません。色彩が類似することから *Thysanozoon auropunctatum* Kelaart in Collingwood, 1876 だと思われませんが、今後の検討が必要です。ダイバーに撮影されることが多く、標準和名がないのは不便であるため、琉球列島伊良部島産の標本 (CMNH-ZX 172) に基づき、生きている時の色彩を多数の電球が灯る夜祭りの境内に見立てて、「ヨイミヤ(宵宮)ミノヒラムシ」の新称を提唱します。

ニセツノヒラムシ科 Pseudocerotidae

ミノヒラムシ

Thysanozoon brocchii (Risso, 1818)



(房総半島鋸南・地先)



(房総半島館山・地先)

特徴 楕円形で、体の縁部は波打っています。前端には1対の触葉を備えています。背面の地色は紫褐色で、全体が多数のやわらかい小円錐状の突起に覆われています。中心線は白色です。腹面には1対の雄性生殖孔が開きます。

大きさ 体長 50 mm、体幅 25 mm。

分布 日本各地。インド・西太平洋ばかりでなく、地中海や大西洋からも知られており、汎世界的に分布しています。

メモ 日本産のニセツノヒラムシ科の中では、岩礁の潮間帯から潮下帯にかけて最も普通に見られる種類です。

ニセツノヒラムシ科 Pseudocerotidae

クロニセツノヒラムシ

Pseudobiceros flavomarginatus (Laidlaw, 1902)



(房総半島勝浦・地先／撮影：柳 研介)

特徴 楕円形で、体の縁部は強く波打っています。前端には1対の触葉を備えています。背面は全体的に黒く、縁部は内側が淡黄色、外側が朱色の2本の線で囲まれています。腹面には1対の雄性生殖孔が開きます。

大きさ 体長 35 mm、体幅 18 mm。

分布 房総半島以南の日本・韓国、オーストラリア、インド洋。

メモ 岩礁の潮間帯から潮下帯にかけて生息しています。色彩は無吸盤型のカリオヒラムシ (P. 9) に似ていますが、本種には触角がなく、触葉を備えることで区別できます。

クロスジニセツノヒラムシ
Pseudobiceros gratus (Kato, 1937)



(房総半島鋸南・地先)



(伊豆半島下田・地先)



(伊豆半島伊東・地先)

特徴 楕円形で、体の縁部は強く波打っています。前端には1対の触葉を備えています。背面の地色は乳白色からやや青味を帯びた白色で、中心線とその両側方に計3本の黒く太い縦線があり、外側の2本は体後方でつながります。縁部は黒く細い線に囲まれています。腹面には1対の雄性生殖孔が開きます。

大きさ 体長 55 mm、体幅 20 mm。

分布 房総半島以南の日本;インド・西太平洋熱帯・亜熱帯域。

メモ 岩礁の潮間帯から潮下帯にかけて生息しています。背面の中心線とその両側の黒い線の太さには個体差が見られます。日本の図鑑やガイドブックで紹介されることの多い種類ですが、学名を *Pseudoceros gratus* としているものがよく見られます。現在のニセツノヒラムシ科の分け方では、本種をタイプ種(属の基準となる種類)としたクロスジニセツノヒラムシ属 *Pseudobiceros* Faubel, 1984 に移行されています。

ニセツノヒラムシ科 Pseudocerotidae

イズノニセツノヒラムシ

Pseudobiceros izuensis (Kato, 1944)



(伊豆諸島伊豆大島・地先)

特徴 楕円形で、体の縁部は強く波打っています。前端には1対の触葉を備えています。背面の地色は象牙色の個体が多く、多数の黒点とそれより小さな白点が点在します。縁部を囲んでいる2本の線は、外側が黒色、内側が赤褐色で、等間隔に白色の線で分断されています。腹面には1対の雄性生殖孔が開きます。

大きさ 体長 40 mm、体幅 20 mm。

分布 房総半島以南の日本：パラオ。

メモ 岩礁の潮間帯から潮下帯にかけて生息しています。背面の地色にはバリエーションがあり、普通は象牙色ですが、稀に灰色や薄い緑を帯びた個体も見られます。

ニセツノヒラムシ科 Pseudocerotidae

スミゾメニセツノヒラムシ

Pseudobiceros nigromarginatus (Yeri and Kaburaki, 1918)



(伊豆半島伊東・地先)

特徴 楕円形で、体の縁部は強く波打っています。前端には1対の触葉を備えています。背面の地色は暗褐色で、中心線は濃く、その両側には淡色の細い縦線があります。側方に向かって地色はやや淡くなり、縁部には黒く細い線があります。腹面には1対の雄性生殖孔が開きます。

大きさ 体長 50 mm、体幅 20 mm。

分布 房総半島、三浦半島、伊豆半島。

メモ 岩礁の潮間帯から潮下帯にかけて生息しています。房総半島から伊豆半島にかけての相模灘一帯では、普通に見られます。